



9月28日の夜、新港での集会。(あいさつは上村京子さん)

上村さんの遺族包み 命を守る闘い強める

新港地域で改めて誓う

9・28の夜

九月二十八日午後八時から、この新港三川地域闘争本部では、九・二八坑内火災十周年抗談集會が、同地域分会と主婦会の手で開かれ、同地域から右火災の犠牲となった故上村さんの冥福を祈るとともに、この日参加した五十人(主婦多数を含め)の心づきは、「上村さんの遺族を包み、助け合いながら命を守る闘い」のためにがんばることを強く誓い合った。

次の一文は、その夜の参加者の誓いともなった池畑重幸さんの訴えである。

池畑さん発言

本日(政府・自民党の石炭政策)にもとつき、生産第一主義、人命の価値は少しも委ねていません。この十年間に、職場では七十五名の命が奪われ、九千八百名の仲間が傷ついているのです。そこには労働者は、生産のため

犠牲させた三川坑内火災から十周年に当たります。さて、その日から今日まで資本の価値は少しも委ねていません。この十年間に、職場では七十五名の命が奪われ、九千八百名の仲間が傷ついているのです。そこには労働者は、生産のため

の道具、だこの会社の考え方の本質がつかぬかたは、先日報老会を行なうました。おじいさんは戦争で亡くなった。早死にしたり、おぼろさんがほとんどでした。

人の命が大切にされない。働いても働いても楽にならない社会。労働者も働かなくていい。美しく生活することに生きがいを感じます。この性格を悪用しては資本は、労働者をこきつかい、災害などすべて本人の責任にして、と善しを犠牲にしてみました。

私たちが、絶対に命まで売った覚えはない。生産の道具だけではいけない。闘いをもって明らかにならなければならない。

そのため私たちは、この闘争の仲間を大切に、手をきり合い、反合理化闘争に団結しなければいけません。

現場検証に見た会社態度

上村裁判官の裁判官が三川坑の坑底を現場検証をしたことは、本紙前号で伝えた。それについては同じ前号に新労組員の声が寄せられ、会社の誤った態度が痛烈な批判を浴びた。ところが三川指導部七分会の新聞、あせ(九月十九日発行)が、同じく会社の態度に鋭い批判を加えた。参考のために、その全文を紹介しよう。

九月二日、裁判官、双方弁護士など約三十人ほどの人が、三川坑で一番条件の良い上層六十脚を検証した。上村裁判官は、予備知識として、炭鉱の坑内とはどういふところか、一度自分の目で確かめたかったのだらうか。会社としては、少しでも裁判官の自分の方へ有利にするためか、一行の心証を書きさすよう、細心の注意を払った。

高齢者ばかりで、ついでに女で、一行が通るところはきついに掃いて、安全に通れるようこのことで、泥まみれのコンクリート板などを取り除いて、ぞうきんがけをした。

そのため一般の通行人は車道側を通らせたので、口々に「土足禁止の札も立てとけよ」と皮肉をいながら通っていた。

ガタガタの通路は硬いボタを敷いて平らにし、階段のなごころには階段を取り付け、水たまりには踏みすべの板を並べた。いままでもおぼろさんがたぐささんきたが、今度のようなことは初めには乗せず歩かされていたが、一

九・二八十周年を迎えて思う

九・二八三川坑内火災から今年で十周年。このとき被災してCO患者となった人びとは、十年後の仕事をかかってもらいたい人さこの日を覚えておきたいと思いで迎えたか。

次の三人の人から、それぞれの声が寄せられた。

松尾訓明さん



松尾さん

治療認定(労災法にもとづく治療)の他の補償打ち切り)により作業について三年余り。体がいつまでたっても、医師の診断により半日作業を認められた者は、午前中だけ作業しており、終日作業の人びとはたとえ体の具



松島さん

傷病補償打ち切りにより、各々に



西田さん

会社に患者を思う心あらば

責任ある態度を示せ

患者・家族の声

とこのころあつたけれども、どうなっているのか。

を要給出来ん人もおり、生活の足らぬからと思つて入所したけれど、少額でも障害年金を受けられるような手はずを、組合でして

西田正一さん

一万田訓練所に入所した経験者十七名。一年間、どうもこの訓練を受け現場に行く時になり、いろいろ話し合った後万田作業所に入所した。坑内勤務期間が十年余りで、厚生年金の五十五歳支給開始には資

家族からも

また同じ九・二八三川坑内火災被災CO患者一本装束助さんの妻の美佐子さんは、その日を迎える思いを次のように書いている。

あの三川大災害の時、二度とこのような災害は起こしません、と約束した会社が、四年もたないうちに、同じような大災害をひき起こし、働きかかると主人を三十二歳の若さで、一生働けぬ体にしたことは、一日たりとも忘れられません。一日たりとも忘れられません。

突然襲って来る筋肉のひきつりや心臓のどうき。

その当時四歳だった長女が十四歳になった現在、六人の病気を知らせてか、私がお嫁に行くまで生きとらさずとね、と淋しそうにう

原稿募集

この紙面は資本の災害責任を追及し、全国に命を守る闘いの輪を広げるためにとを設けられたのです。どうか皆さん、積極的に投稿していただき、期待にこたえましょう。

編集部

裁判官に細い心配り ごまかそうとやっきの工作

この手記は、いままでもなく新聞、あせに掲載されたもので、会社の保安対策というものが、いかにどういふものか、何よりもよく語っています。事実の前には、会社は返す言葉はないはず

このように、各職場に見る会社の素直な態度をどうして告発し、会社の責任を強く追及しよう。

原告団消息

- 9月10日 新生区退職者班会議。
- 14日 原告団役員会議。①九・二八坑内火災検証に ついて。②山元交渉に ついて。
- 20日 原告団班長会議。山元交渉。①精密検査の具 体化について。②遺族 の諸問題について。
- 22日 原告団編集会議。
- 26日 全社宅ビル配布。
- 27日 各事業所へビラ配布。 大災害裁判官へ、退

職者関係に招請状です